

令和5年11月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	議席 番号	氏名	要 旨	1 / 1
	2	岩 村 恵 美 議員		
発 言 項 目	要 旨			答 弁 者
1 有機農業（オーガニック）の推進と学校給食の活用について	<p>農林水産省は2021年5月に策定した「みどりの食料システム戦略」の中で、2050年までに化学農薬使用量（リスク換算）を50%、また、化学肥料使用量を30%減らし、耕地面積に占める有機農業の取組面積を25%に拡大する目標を掲げた。なお、現在の日本の有機農地の割合は自己申告で0.5%、有機JAS認証を取得している農地は、0.2%である。ついては、有機農業の推進と学校給食の活用について、以下同う。</p> <p>(1) 当市に学校給食を考える会及び保護者から有機（オーガニック）給食を望む声がある中で、今までなぜ学校給食に有機食材を導入してこなかったのか。課題及び障壁となっている懸念事項を伺う。</p> <p>(2) 当市として、これらの懸念事項が解決されるならば、学校給食のオーガニック化を進めていく意思はあるのか。</p> <p>(3) ゲノム編集を含む遺伝子操作された農水産物が給食に使用されることはないのか。</p> <p>(4) 当市の2023年現在の有機農家の件数、経営耕作地面積、有機農産物及び生産量を把握しているか。</p> <p>(5) 他の市町村や世界の成功例を見ても、学校給食で有機農産物を使用することが農家の経営安定化につながり、結果として有機農業者や、新規就農の増加につながっていることをどのように捉えているのか。</p> <p>(6) ネオニコチノイド系の農薬は「子どもの脳に影響がある」と言われており、FAO（国連食糧農業機関）の統計によると日本の農薬使用量は世界の中で上位になっている。また、農薬使用量が多い国の方が自閉症の人数が多いというデータもある。そこで、当市における20年前、10年前及び現在の児童生徒の自閉症と診断された人数について伺う。</p>			市 長 副 市 長 教 育 長 関 係 部 長
2 男性トイレにサニタリーボックスを設置することについて	<p>近年前立腺がん、膀胱がんなど男性特有のがん患者が急激に増加しており、国立がん研究センターの統計によると、前立腺がんは、1975年に2,000人ほどだったものが、2000年には2万3,000人、2020年には10万5,000人を超え、膀胱がんの男性患者は、2万人を超え、合計約12万人が罹患している。これらのがん患者は、術後に尿漏れに悩む方が多いようである。小林製薬株式会社によるウェブ調査によると、2021年の調査で、40代から70代の男性の約8人に1人が尿漏れに悩むとの回答結果が得られた。個人差はあるが、パッドは数時間おきに交換が必要になり、外出先で使用済みの尿漏れパッドを捨てる場所がなく、交換したパッドを袋に入れて持ち帰るのは臭いが気になり、精神的に負担がかかる。公共施設だけでなく、企業や民間の施設、商業施設でも男性用トイレにサニタリーボックスを設置して欲しいとの声がある。そこで以下同う。</p> <p>(1) 富士宮市の公共施設の男性用トイレへのサニタリーボックスの設置状況はどのようになっているのか。</p> <p>(2) 民間の施設や企業、商業施設などに、男性用トイレへのサニタリーボックスの設置を普及するよう働きかけるなど、市全体の取組として広く啓発を行うなどの対応を検討してはいかがか。</p>			市 長 副 市 長 教 育 長 関 係 部 長